

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1534 号

Profiles of inflammatory markers and lipoprotein subclasses in patients undergoing continuous peritoneal dialysis

(腹膜透析患者における炎症マーカーとリポ蛋白サブクラスの特徴)

昆 美香 (こん みか)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、腹膜透析 (CAPD) 患者に慢性炎症と脂質異常症が合併し、とりわけ IDL-コレステロールの上昇が特徴的であることを報告した臨床的に意義のある論文である。

末期腎不全患者では、死亡や入院治療のリスクが高い。その原因として、心血管疾患が重要である。これは、末期腎不全患者に合併する慢性炎症や脂質異常症が、動脈硬化を促進するためと考えられる。本研究では、慢性炎症と脂質異常症について、CAPD 患者と健常人を比較した。炎症マーカーとして、高感度 C 反応性蛋白 (hs-CRP) と血清アミロイド A (SAA) を測定した。リポ蛋白サブクラスは、陰イオンカラムを用いた高速液体クロマトグラフィー (HPLC) で分離し、各分画中のコレステロール濃度を測定した。CAPD 患者の hs-CRP および SAA は、健常群より高かったが、治療期間が長い群で低くなっていた。カイロミクロン、VLDL および IDL-コレステロールは健常群より有意に高かったが、特に IDL-コレステロールは透析期間にかかわらず常に高値を示した。

以上より、CAPD 患者は、慢性炎症と脂質異常症を合併することが明らかになった。特に、IDL-コレステロールは、炎症が軽度の長期治療例においても増加している唯一のリポ蛋白サブクラスであった。本研究により、HPLC 法を用いたリポ蛋白サブクラスの解析が、透析患者における脂質異常症を検出できることを示した。特に、IDL-コレステロールの上昇は、長期に CAPD を継続できる患者においても動脈硬化を促進する可能性があり、本法が CAPD 患者の動脈硬化の予防と治療に貢献できると考える。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。